

## 第 70 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

- と き：令和 4 年 2 月 18 日（金曜日）16 時 45 分から 17 時 40 分まで
- ところ：大阪府庁本館一階 第一委員会室
- 出席者：吉村知事・危機管理監・政策企画部長・健康医療部長・報道監・福祉部長  
（リモート出席）田中副知事・山口副知事・海老原副知事・総務部長・財務部長・商  
工労働部長・ワクチン接種推進監・教育長・府警本部警備部長・大  
阪市健康局首席医務監

### 【会議資料】

#### 会議次第

- 資料 1－1 現在の感染状況について
- 資料 1－2 現在の療養状況について
- 資料 1－3 医療提供体制がひっ迫している要因の分析について
- 資料 2－1 まん延防止等重点措置に基づく要請
- 資料 2－2 営業時間短縮要請の実効性確保に基づく要請
- 資料 2－3 （参考）感染防止認証ゴールドステッカーについて
- 資料 2－4 専門家のご意見
- 資料 3－1 大阪府における高齢者施設への対応等について
- 資料 3－2 宿泊療養施設の運用フェーズの移行について
- 資料 3－3 大阪コロナ大規模医療・療養センターの利用促進について

### 【知事】

- ・皆さんお疲れ様です。
- ・大阪府に出されているまん延防止等重点措置が 3 月 6 日まで延長されるということが、決定いたしました。
- ・本日の大阪府の新規陽性者数は 1 万 1505 人になります。
- ・感染者そのものについては、7 日間の平均で見ると、感染の拡大、右肩上がりということは抑えられているかもしれませんが、非常に高い水準であり、かつ予断を許さない状況が続いているというふうに思います。また、とりわけ病床が非常にひっ迫しています。
- ・病床の中を見ても、入院されている方、70 代以上の方が 80%を占めるという状況です。入院者のうちの全体の 8 割が 70 代以上の高齢者というのが現状です。
- ・高齢者を守るという観点が非常に重要になってくると思います。特に今回オミクロン株を見ますと、これまでの株とずいぶん違うところは、まさにここだと思っています。
- ・ですので、本日、感染状況や様々な利用状況を分析した上で、まん延防止措置の中身を基本的対処方針に基づいて決定をいたしますが、重要な観点としましては、オミクロン株特

有の対策として、やはり高齢者を守るという観点、ここに力を入れた対策をしていきたいと思えます。

- ・本日、その観点から様々決定をしたいと思えますのでよろしくお願いします。
- ・とりわけ高齢者施設への支援、ワクチンであったり、往診だったり、あるいは高齢者の方、あるいは同居家族の方、ここに非常に注意していただければならない。
- ・やはり高齢者を守るという観点から、対策に強く力を入れたいと思えますのでよろしくお願いします。

※資料 1-1 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 1-2 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 1-3 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 2-1 に基づいて、危機管理監より説明。

※資料 2-2 に基づいて、危機管理監より説明。

※資料 2-3 に基づいて、危機管理監より説明。

※資料 2-4 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 3-1 に基づいて、健康医療部長・福祉部長より説明。

※資料 3-2 に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料 3-3 に基づいて、危機管理監より説明。

#### 【海老原副知事】。

- ・資料 3-1 につきまして 2 点申し上げたいと思えます。
- ・まず 1 点目は 1 ページ目の 3 つ目ですけれども、大規模医療・療養センター等を活用した転院・入所の促進。いろいろなお話をうかがいますと、高齢者施設でクラスターが発生し、入院してから症状が安定・経過しても、すぐに施設に戻るのが難しいケースも中にはあるという話を聞いております。
- ・自立できる方になるとは思いますが、そういう方については、療養センター・大規模センターもあるでしょうし、やはり診療型の宿泊療養施設などでも受け入れることができないか、これは健康医療部と福祉部で検討していただけるとありがたいというふうに思えます。
- ・それからもう 1 点ですけれども、資料の 4 ページ目に高齢者施設への補助の拡充について、ケースバイケースになりますので、どのぐらい拡充するのかというのは、その施設や陽性者の数によって変わってくると思えますけれども、知事から総理・山際大臣に要請をして、国の方で拡充の判断をされたものですので、できるだけスピード感をもって対応していければと思っております。
- ・いろいろ手続きはありますけれども、なるべく早く施設にお金が届くように、関係部局で連携して取り組んでいただければと思えます。

- ・以上2点、申し上げます。

#### 【知事】

- ・オミクロン株の特性、とりわけこの感染防止対策は高齢者の皆さんを守ることについて注力した内容になっています。これが我々としてもやはり最も強化しなければならないところだと思います。
- ・これに関して、府民への呼びかけ等がある資料2-1について、「高齢者施設への要請」というところ、表現の仕方になるのかもしれないんですけども、若干の違和感というか、これでいいのかなというところを指摘したいんですけど。
- ・例えばワクチンの3回目接種、これは非常に重要だと思います。どの専門家に聞いても、朝野座長に聞いてもそうだし、大阪府のどの専門家も指摘され、全国的にも皆がおっしゃっている。その中で、期限を区切って2月中に何とかやりきってほしいということ、市町村にお願いするわけです。
- ・それを実現する上で、やはり医療機関が特措法に基づいて協力するという点については、これでいいと思うんですけど、高齢者施設は追加接種に協力することとあるんですけど、施設とすれば、むしろ打ちに来てほしい・打ってほしいという立場だと思います。これだと今まで非協力的だったのかということ、そうでもないと思いますし、施設によってまちまちなんですけれども、この協力することってというのが表現としていいのかなと。
- ・それに関連してなんですけど、陽性者が発生した場合、重点往診チームを作るという新たな策も今回決まりました。これも地域の中核的な医療機関が、往診依頼があった場合には協力すること、ということも記載しています。医療機関への要請はこれでいいと思うんですけど、高齢者施設からすると、陽性者が出て困ったという立場になるにも関わらず、協力することというのは、表現として正しいのかと。
- ・実施主体は確かに市町村であったり、施設が治療をするわけじゃないので違うのかもしれないんですけど、協力することっていう表現がこれでいいのかと。
- ・協力することと書いてるけど、意味をもう少し明確にしておかないといけないと思うんですけど、このあたりどうですか。

#### 【健康医療部長】

- ・少し具体的に申し上げますと、例えばワクチン接種に関しましては、施設側が入所者の名簿を作成するとか、接種券がなくても打てますので、接種後に接種券を獲得するとか、施設側にも実は負担があるんですね。2月中に、接種が難しいと回答されている調査の中に、理由としてそれを挙げられてる団体もあります。
- ・だから、そういう施設側に生じる負担についてもご協力いただきたいというのが、ワクチンに関する（資料2-1「高齢者施設への要請」の）二つ目のマルの趣旨でございます。

- ・治療に当たっての協力もわかりにくいんですけども、往診に行っていた医療機関からの要望としてありますのが、例えば施設に往診に行っても、一体その中に何人の患者さんが、入所者がいるのか、どういう状態なのか、施設側から基礎情報がきちんと入ってこないと往診医療機関が現地に行っても、1から情報収集をしながら治療するという事態になって、非常に混乱するというか、負担があるというご意見も既にいただいておりますので、施設サイドのご協力は、ワクチンにしても医療介入にしても不可欠であると思っております。

#### 【知事】

- ・よくわかりました。
- ・その部分について、それぞれの高齢者施設に通知をするときにですね、いつクラスターが発生するかわかりませんから、全部で大阪府内で3500施設の高齢者施設ありますので、それぞれの施設に、具体的にこういったものを準備しといてくださいというのを、その意味でも協力というのが含まれるということ、医療部と福祉部でしっかりやってもらいたいと思います。
- ・おっしゃるように、接種券がなくても接種できるのに、接種券がないと接種できないんじゃないかというのがあって、接種をしてない施設もあるということも聞いています。
- ・この情報の周知が非常に重要だという意見もあります。そういった意味では、接種券は市町村ごとにそれぞれ違いますから、接種券がなくてもできるよと、そして必要な名簿は作って、とにかく2月中にそのワクチンの接種をするんだと。希望しない方は別ですけど、希望するという方については、施設においてワクチン接種は実施をするんだと。接種券がないとか、この手続きがおかしいとかじゃなくて、接種するという事に施設管理者が協力する、そのためにこういったこと準備をきちんとやってもらいたいというのはお願いします。
- ・そうすることで市町村もやりやすいと思います。特に施設というのは、本来連携医療機関があるはずなので、多くはそこですぐできるはずだと思う。医療機関と連携してやっていく上でも重要だと思うんで、何をすべきかというのは、早いうちに、この方針決定とともに通知をしてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。
- ・それからもう一点なんですけども、複数の専門家であったり朝野座長もおっしゃってました、感染を防ぐ、特に高齢者を感染から遠ざけていく、高齢者の皆さんの感染から守るという意味では、高齢者の皆さん、あるいは高齢者の皆さんと同居しているご家族等、日常的に高齢者の皆さんと接する方については、やはり感染リスクの高い場所への移動・外出の自粛をお願いしたい。これを要請したいと思います。
- ・その中で、高齢者自身は陽性になってないんですけども、同居の家族が陽性になった場合については、同居の高齢者を守るためにも、積極的に大規模医療・療養センターや宿泊療養所に入ってくださいということを強く要請したいと思います。

- ・それは、同居しているご家族である高齢者を守るためだということで、24条9項でお願いしていこうと思います。
- ・そのときに、問題となるのが、同居している高齢者が、お世話や介護が必要だということがあれば別だと思えますけれども、一定の支援を必要とする高齢者がご家庭内にいらっしゃる方は、自分が陽性になったからといって宿泊療養施設等に入ってしまうと、高齢者が取り残されて、生活がちょっと厳しくなってしまうかもしれない。最後は家族の判断に当然なと思うんですけど、そういう場合の支援策、こういう支援策がありますよということが必要だと思うんですけど、福祉部の方で何か相談を受けたときに、こちらの方に案内するとか、そういった選択肢は準備してもらいたいと思うんですけど、そのあたりどうですか。

#### 【福祉部長】

- ・家族の方がそういった施設に入られて、高齢者が一人残り、その方が一定介護が必要というケースであれば、市町村が設置している地域包括支援センターが相談の窓口になっております。特に要介護認定を受けていなくても、申請して実際に認定されるまでの間でもサービスが利用でき、そういう身近なところで支援できるような形に通常からなっておりますので、市町村にもそういうケースについては対応いただくような形で要請をいたしますし、府としてもバックアップしたいと思います。

#### 【知事】

- ・ぜひそこをよろしくお願いします。大規模医療・療養センターのコールセンターにそういった相談がある可能性があると思えますので、24時間対応に拡充するということですが、コールセンター員がそういう相談を受けたらこういうところもありますよと、その上で判断してもらえるように、選択肢を示せるようにコールセンター員に説明をしてもらいたいと思います。

#### 【危機管理監】

- ・はい、了解いたしました。コールセンターでそういう問い合わせに対応できるように備えておきます。

#### 【知事】

- ・数がすごく多い事例ではないと思えますけれども、その可能性があるというのを認識した上で対応をお願いします。それから、当然マイカーで大規模医療・療養センターに行けるわけですし、退所も自由だと思います。そのときに高齢者の方が潜伏期間で陽性になったということになれば、退所して家族で自宅療養しますという選択肢もあると思うんですけど、それは選択できることになるんですかね。

**【危機管理監】**

- ・自由に退所いただけるわけではないんですけれども、ホテル療養でもそうなんです、今でも家族の方が陽性になった場合、陽性者同士ですので、その場合にはご本人の意向により帰っていただくというのは十分選択可能です。

**【知事】**

- ・大規模センターについては、ADLが自立している方ということで、60歳未満の方となっておりますけれども、60歳以上の同居の家族もいると思うので、60歳以上の同居の家族が陽性になって、その方がADLが自立している、そして、陽性になってない高齢者がいらっしゃるといときは、診療所型の宿泊療養施設を積極的に活用するというのでいいんですか。

**【危機管理監】**

- ・そうですね大規模医療・療養センターの方は、60歳以上の方というのはなかなかサポートするのが難しいところがありますので、こちらのご案内としては医療型の宿泊療養施設にご案内できればと思っております。

**【健康医療部長】**

- ・そうですね。60歳未満の方でも基礎疾患、いわゆる重症化リスクお持ちの方は、診療型ホテルに誘導するというのを、コールセンターでしっかりご対応いただきたいと思えます。

**【知事】**

- ・あと非常に重要になるのが、もう既に往診協力医療機関ということで39医療機関がやってくれている。非常に心強いところなんですけれども、ただ、高齢者施設のクラスターが今後増える可能性もあるという中で、一番大事なワクチンなんですけれども、現実には陽性者も出てくるという意味で、それぞれ8つの医療圏に1チームずつの主軸を置いていく重点往診チームという方針は、いつから運用開始ができそうですか。

**【健康医療部長】**

- ・既にこれに近い形で、往診のチームを編成して動いてくださっている医療機関もありますので、8つ一度にスタートするというよりも、調整がついたところから、来週より順次運用開始をしたいと思えます。
- ・逆に、OCRTの対応強化チームは、本日スタートいたしました、LINE\_WORKSかTeamsか、何かを用いてリアルタイムで情報共有するというのを目指します。システムを来週

早々に運用開始し、施設側がこういう患者がいて、施設や保健所に何人の患者がいて、こういうオーダーを、というオーダー表を出していただき、それを重点往診チームと調整するというのをスタートしたいと思います。

#### 【知事】

- ・あと医療機関への要請についてなんですけども、ワクチンの早期追加接種で高齢者施設に行うというのは、連携医療機関とか診療機関にお願いしていくということになると思いますが、高齢者施設に対して感染制御の支援を促進すること、もし陽性者が出た場合はレッドであったり区分けであったり、こういうふうに対応すべきだという話とPTの準備なんかもあると思うんですけども、そういった高齢者施設の事前の準備という意味ではどんなことを推進するという要請になりますか

#### 【健康医療部長】

- ・事前の準備につきましては、福祉部とも連携いたしまして、既に2年間ずっと看護協会様が回っていただいて、事前準備の研修は既に進めてきたところです。
- ・足元では、陽性者が出た場合にどう感染制御するか、グリーンゾーンとイエローゾーン、レッドゾーンとをどう分けるかという感染制御に入るチームは、実は医療チームとは別になります。両方できる先生もいらっしゃるんですが、基本的には感染制御を指導するチームと、往診をする指導するチームというのが別になりますので、ニーズに応じて両方入る場合もあれば、感染制御だけ入る施設、緊急性に応じて治療チームだけ入る施設もあるということになると思います。

#### 【知事】

- ・高齢者施設側から見ると、陽性者が発生したというところがやっぱスタートなので、その時に往診依頼をすぐにできるようにする。これを今回の重点往診チームであったり、保健所の重点化であったり、ここは非常に重要だし、高齢者施設にはワクチンを早期に接種するというので、医療にもアクセスしてもらおう。また、感染制御もやることに加えて、やはり重度の介護が必要な方も多くいらっしゃるんで、早期治療等いろいろ対策やりながら、高齢者施設自身がその陽性の入所者に対して適切に対応していくということも、この現状においては求められることでもあるし、府として最大限サポートすべきことでもあると。
- ・医療の観点からの様々なサポートというのがありますけれども、財政的な観点のサポートを、これは岸田総理、山際大臣にも要請をして実現もできましたので、副知事からも話ありましたが、様々な高齢者施設に負担が大きくなりますから、しっかり支援できるように、早期にこれを受給できるようにしてもらいたいと思います。こういう制度があるということであれば、財政的なことを心配せずに対応も可能だと思いますから、スムーズ

に申請できるように、周知をお願いしたいと思います。

- ・また併せて、国の支援制度だけで足りるのかどうかも踏まえてですね、より強化することも頭に入れながら、高齢者施設を支援することを中心にしていきたいと思います。
- ・それから、施設だけじゃなくて自宅で療養されている高齢者の方も当然いらっしゃいますので、そういった方には保健所から高齢者への往診依頼等もあると思いますから、その辺りも医療機関に協力していただくという必要があると思いますので、よろしく願います。ここは今日記載があるんですかね。

#### 【健康医療部長】

- ・本日、資料3-1は施設のみ特化しておりますが、自宅療養に対する強化というのは、これまで通り自宅待機SOSから訪問看護師への連携数も1日数百件となっておりますので、しっかりフォローをしてみたいです。

#### 【知事】

- ・自宅待機SOSですけれども、自宅療養の方が連絡して、100%ということではないと思いますけれども、連絡が繋がらない、それが普通みたいな報道が一部あるんですけど、これちょっと実態と違うと思ってて、現状の応需率とどんなふうにサポートしてるか、もちろん繋がらなかったという方もいらっしゃるんですけど、全体どうなのかと。そのあたりちょっと教えてもらえますか。

#### 【健康医療部長】

- ・はい。一時期、非常に繋がりにくいという声を受けまして、2月5日から300回線にしております。現状を申し上げますと、相談件数がだいたい1日あたり3000件から2800件の間で少し高止まりをしています。増加傾向が止まりまして高止まりをしています。その中で、かかってきた電話をどれだけ取れているかという応需率は、一番直近のデータで言いますと96.8%。足元10日間では、回線を増強してからは、どんな低くても95%以上となっておりますので、朝一番とか時間帯によりましては多少繋がりにくい時間帯があると思うんですが、受電としてはかなりできている状況だと思います。かかってくる電話の中で一番多いのは、健康相談です。こういう症状があるんですけども、どう対応したらいいのかというご相談です。
- ・ID番号がまだない方のホテルへの入所申込みも、日に数十件続いているところです。
- ・自宅待機に際し、交換ステーションに繋いで欲しい、あるいは診療機関を教えて欲しいというご相談いたしましても、対応をしているところでございます。



**【知事】**

- ・はい、ありがとうございます。
- ・あの大規模医療・療養センターは、ちょっと前まで違う運用でしたけど、今は保健所の登録がなくても、コールセンターに陽性という連絡があれば受け入れをするという運用変わったっていいですか。

**【危機管理監】**

- ・そうですね。そのように運用を変えております。

**【知事】**

- ・そのあたりの周知も含めて、しっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上